

北川水系河川整備計画

『(案)と整備計画の対比 一覧』

平成 24 年 10 月

福井河川国道事務所

	北川水系河川整備計画(案)	北川水系河川整備計画	修正理由
P3-3	<p>3.3洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する目標</p> <p>3.3.1治水対策の基本的な考え方</p> <p>平成20年6月に定めた北川水系河川整備基本方針における基本高水流量(超過確率1/100年)は、基準地点高塚において1,900m³/sとしており、このうち福井県が現在建設中の洪水調節施設による効果(高塚地点において100m³/s)を見込み、1,800m³/sを河道への配分流量としている。しかし、現況では基本方針で定める河道への配分流量に対して全川にわたり河道断面が不足しており、洪水時に水位が上昇しやすく、平成16年10月の台風23号洪水などの被害の記憶も新しい。</p> <p>北川流域では洪水被害の経験から、霞堤から耕作地に洪水を一時貯留するなど土地利用を含めて、流域全体で洪水に対処してきた。また、下流部の流域内資産が集中する小浜市街地は、右支川江古川合流点下流部や左支川遠敷川合流点下流部の連続堤で守られているものの、過去に多くの被害をもたらした大洪水と同規模の洪水が来襲した場合には、堤防決壊による甚大な被害が予想される。洪水被害を最小限とするためには、洪水時の水位をできるだけ低くするための対策とともに、過去の洪水時にも見られた堤防基礎地盤からの漏水を防止する対策といった浸透・侵食に対する堤防強化、危機管理体制の強化等が必要である。</p> <p>以上を踏まえ、洪水による災害の発生防止及び軽減に関する目標は、北川の上下流部の人口・資産等の状況を考慮し、北川水系の治水対策として計画対象期間内に達成すべき整備水準、河川整備基本方針で定めた最終目標に向けた段階的な整備、本支川の整合などを総合的に勘案し、以下のとおりとする。</p> <p>遠敷川合流点から下流部においては、治水・利水・環境のバランス、特に貴重な動植物の生息・生育環境の保全を行い、利水への影響を考慮した掘削や水位低下方策により河道の流下能力を向上させる対策に加え、浸透・侵食に対する堤防強化により堤防の信頼性を向上させ、洪水に対する安全度向上を図る。</p> <p>遠敷川合流点から上流部では霞堤を活かした治水機能を維持し、現況の流下能力が確保されるよう河床の維持掘削、河道内の樹木伐採などに努める一方、浸透・侵食に対する堤防強化により堤防の信頼性を向上させ、洪水に対する安全度向上を図る。</p> <p>上記施策の実施によって、遠敷川合流点から下流部では、現況流下能力1,000m³/s程度から将来目標である1,800m³/sに向けた途中段階として戦後最大となる昭和28年9月洪水を考慮し、河道で1,400m³/s程度の流下能力を確保する。</p>	<p>3.3洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する目標</p> <p>3.3.1治水対策の基本的な考え方</p> <p>平成20年6月に定めた北川水系河川整備基本方針における基本高水流量(超過確率1/100年)は、基準地点高塚において1,900m³/sとしており、このうち福井県が現在建設中の洪水調節施設による効果(高塚地点において100m³/s)を見込み、1,800m³/sを河道への配分流量としている。しかし、現況では基本方針で定める河道への配分流量に対して全川にわたり河道断面が不足しており、洪水時に水位が上昇しやすく、平成16年10月の台風23号洪水などの被害の記憶も新しい。</p> <p>北川流域では洪水被害の経験から、霞堤から耕作地に洪水を一時貯留するなど土地利用を含めて、流域全体で洪水に対処してきた。また、下流部の流域内資産が集中する小浜市街地は、右支川江古川合流点下流部や左支川遠敷川合流点下流部の連続堤で守られているものの、過去に多くの被害をもたらした大洪水と同規模の洪水が来襲した場合には、堤防決壊による甚大な被害が予想される。洪水被害を最小限とするためには、洪水時の水位をできるだけ低くするための対策とともに、過去の洪水時にも見られた堤防基礎地盤からの漏水を防止する対策といった浸透・侵食に対する堤防強化、危機管理体制の強化等が必要である。</p> <p>以上を踏まえ、洪水による災害の発生防止及び軽減に関する目標は、北川の上下流部の人口・資産等の状況を考慮し、北川水系の治水対策として計画対象期間内に達成すべき整備水準、河川整備基本方針で定めた最終目標に向けた段階的な整備、本支川の整合などを総合的に勘案し、以下のとおりとする。</p> <p>遠敷川合流点から下流部においては、治水・利水・環境のバランス、特に貴重な動植物の生息・生育環境の保全を行い、利水への影響を考慮した掘削や水位低下方策により河道の流下能力を向上させる対策に加え、浸透・侵食に対する堤防強化により堤防の信頼性を向上させ、洪水に対する安全度向上を図る。</p> <p>遠敷川合流点から上流部では霞堤を活かした治水機能を維持し、現況の流下能力が確保されるよう河床の維持掘削、河道内の樹木伐採などに努める一方、浸透・侵食に対する堤防強化により堤防の信頼性を向上させ、洪水に対する安全度向上を図る。</p> <p>上記施策の実施によって、遠敷川合流点から下流部では、現況流下能力1,000m³/s程度から将来目標である1,800m³/sに向けた途中段階として戦後最大となる昭和28年9月洪水と同規模の洪水(遠敷川合流点で概ね1500m³/s)に対して洪水調節施設による効果を見込み、河道で1,400m³/s程度の流下能力を確保する。</p>	<p>知事意見を踏まえ修正</p>

	北川水系河川整備計画(案)	北川水系河川整備計画	修正理由
P2-11	<p>2.3河川環境の現状と課題</p> <p>2.3.1動植物の生息・生育・繁殖環境</p> <p>北川上流域は急峻な渓谷であり、瀬・淵が連続する溪流環境となっている。中流域は瀬・淵が連続する礫河原となっており、砂州上には湿地性植物が生育している。下流域の汽水域は塩性湿地環境となっている。</p> <p>以上のような河川環境の特徴があり、多様な動植物が生育・生息・繁殖できる自然環境の保全が必要である。</p>	<p>2.3河川環境の現状と課題</p> <p>2.3.1動植物の生息・生育・繁殖環境</p> <p>北川上流域は急峻な渓谷であり、瀬・淵が連続する溪流環境となっている。中流域は瀬・淵が連続する礫河原となっており、砂州上には湿地性植物が生育している。下流域の汽水域は塩性湿地環境となっている。</p> <p>また、下流域の国富地区は、日本産コウノトリが国内で絶滅する前の最後の繁殖地であったとされ、地元住民により、再びコウノトリが生息できる環境づくりを目的とした取り組みがなされています。</p> <p>以上のような河川環境の特徴があり、多様な動植物が生育・生息・繁殖できる自然環境の保全が必要である。</p>	知事意見を踏まえ修正
P2-20	<p>(2)水質事故</p> <p>北川流域における油等の有害物質が河川へ流失した事故(水質事故)は、年間数件程度継続して発生しており、オイルマット・フェンスの設置などの対応により被害の拡大を抑制している。なお、油等の水質事故が発生した場合は、「九頭竜川・北川水系河川水質汚濁防止連絡協議会」を通じて、関係機関への迅速な連絡を行い被害拡大の防止に努めている。</p>	<p>(2)水質事故</p> <p>北川流域における有害物質や油等が河川へ流失した事故(水質事故)は、年間数件程度継続して発生しており、オイルマット・フェンスの設置などの対応により被害の拡大を抑制している。なお、油等の水質事故が発生した場合は、「九頭竜川・北川水系河川水質汚濁防止連絡協議会」を通じて、関係機関への迅速な連絡を行い被害拡大の防止に努めている。</p>	表現の適正化
P3-8	<p>(2)水質事故への対応</p> <p>油等の有害物質の河川への流出事故(水質事故)への対応として、「九頭竜川・北川水系河川水質汚濁防止連絡協議会」による関係機関の連携を強化し、水質事故発生時における迅速な対応、並びにその拡大防止を図る。</p>	<p>(2)水質事故への対応</p> <p>有害物質や油等の河川への流出事故(水質事故)への対応として、「九頭竜川・北川水系河川水質汚濁防止連絡協議会」による関係機関の連携を強化し、水質事故発生時における迅速な対応、並びにその拡大防止を図る。</p>	表現の適正化
P4-12	<p>2)水質事故への対応</p> <p>油等の有害物質の河川への流出事故(水質事故)への対応として、「九頭竜川・北川水系河川水質汚濁防止連絡協議会」による関係機関の連携を強化し、水質事故に円滑な対応が図れるよう水質事故処理の訓練等を実施していく。</p>	<p>2)水質事故への対応</p> <p>有害物質や油等の河川への流出事故(水質事故)への対応として、「九頭竜川・北川水系河川水質汚濁防止連絡協議会」による関係機関の連携を強化し、水質事故に円滑な対応が図れるよう水質事故処理の訓練等を実施していく。</p>	表現の適正化
P2-2	<p>2.1.3 堤防の整備状況</p> <p>表 2.1.1 堤防整備率</p> <p>図 2.1.2 北川水系堤防整備状況</p> <p>表 2.1.2 浸透・浸食に対する堤防強化対策延長 (km)</p>	<p>2.1.3 堤防の整備状況</p> <p>表 2.1.1 堤防整備率</p> <p>図 2.1.2 北川水系堤防整備状況</p> <p>表 2.1.2 浸透・浸食に対する堤防強化対策延長 (km)</p>	時点修正
P2-20	<p>(1)水質の現状</p> <p>図 2.3.3 国管理区間の水質(BOD 平均値 75%値)</p>	<p>(1)水質の現状</p> <p>図 2.3.3 国管理区間の水質(BOD 平均値 75%値)</p>	時点修正

	北川水系河川整備計画(案)	北川水系河川整備計画	修正理由
P4-5	4.1.1 洪水等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項 (2) 堤防の安全性の確保 図 4.1.5 堤防断面形状確保実施予定箇所 図 4.1.6 堤防断面安全性確保実施予定箇所	4.1.1 洪水等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項 (2) 堤防の安全性の確保 図 4.1.5 堤防断面形状確保実施予定箇所 図 4.1.6 堤防断面安全性確保実施予定箇所	時点修正

北川水系河川整備計画(案)

北川水系河川整備計画

P2-2 2.1.3 堤防の整備状況(平成21年3月)
表 2.1.1 堤防整備率

河川名	完成堤防	暫定堤防	山付き	計
北川	14.1	18.1	0.2	32.4
	43.5%	55.9%	0.6%	100.0%

2.1.3 堤防の整備状況(平成23年3月)
表 2.1.1 堤防整備率

河川名	完成堤防	暫定堤防	山付き	計
北川	22.1	10.1	0.2	32.4
	68.2%	31.2%	0.6%	100.0%

図 2.1.2 北川水系堤防整備状況

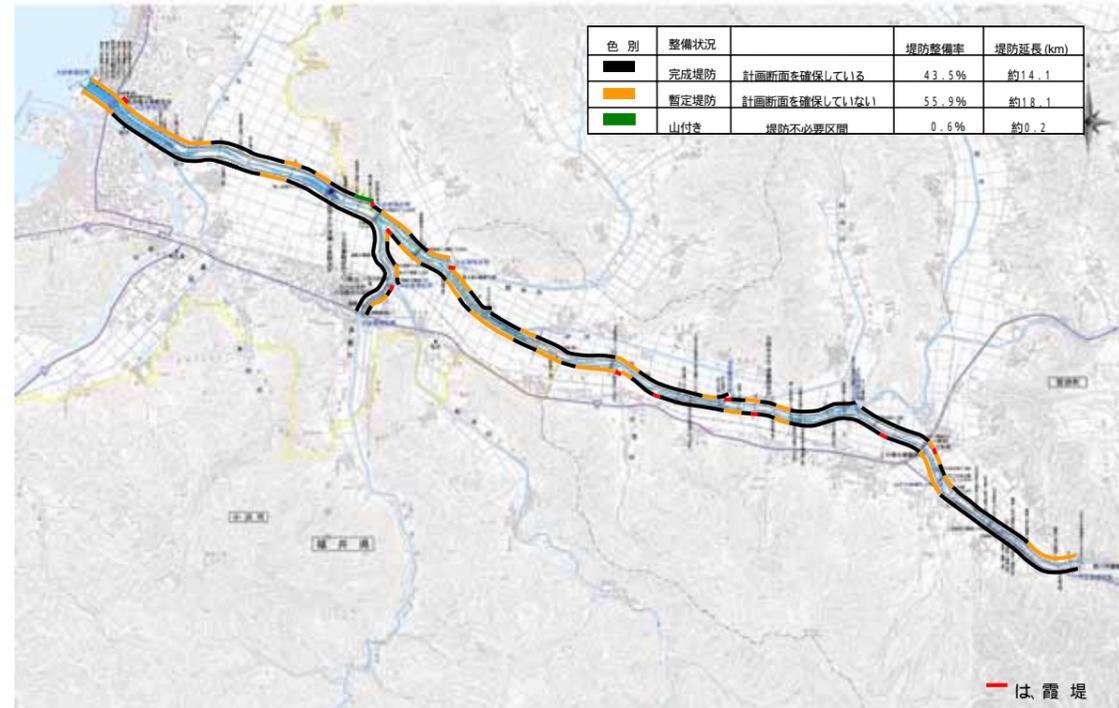


図 2.1.2 北川水系堤防整備状況

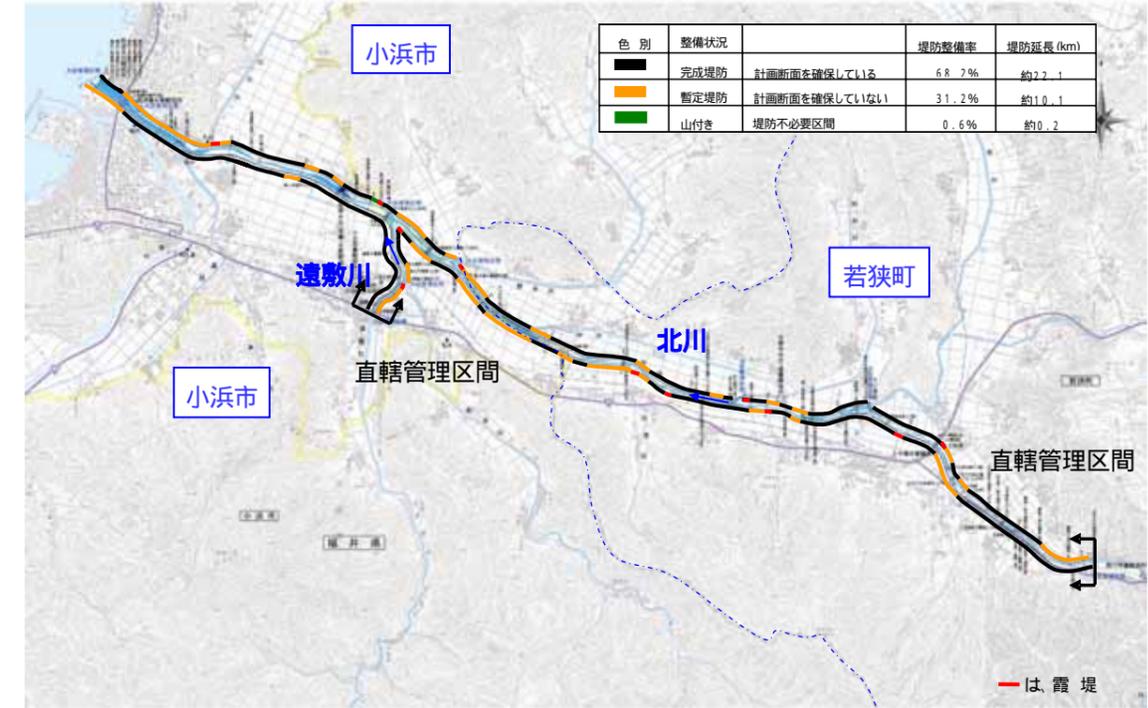


表 2.1.2 浸透・侵食に対する堤防強化対策延長(km)

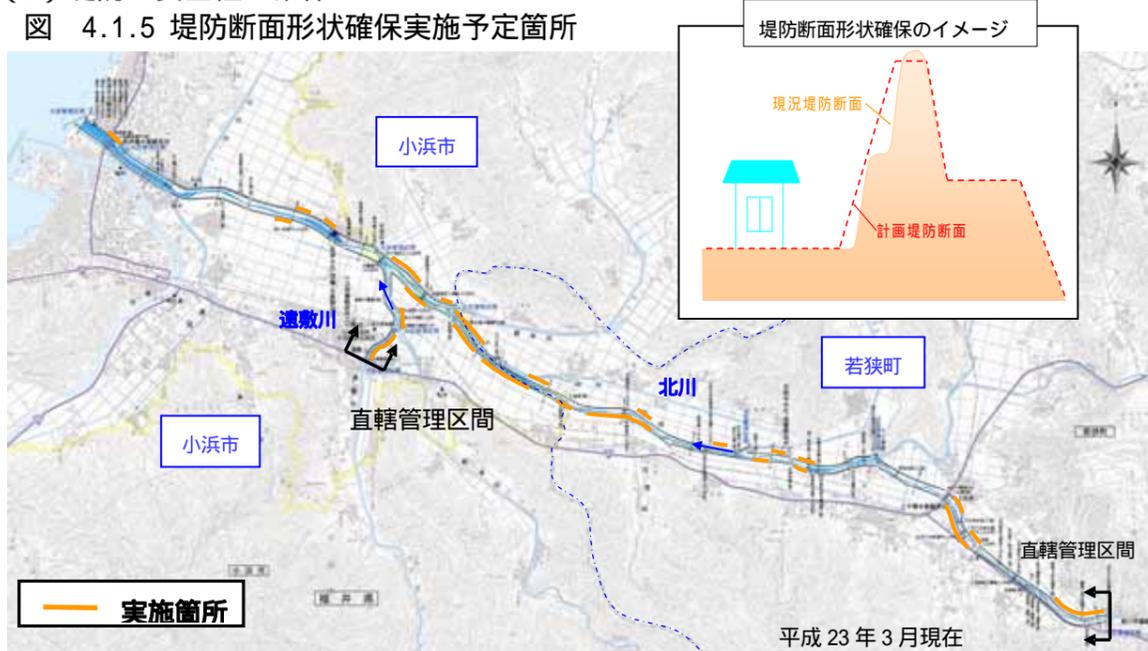
	北川	遠敷川	計
浸透	9.1	2.2	11.3
侵食	0.5	0.5	1.0

表 2.1.2 浸透・侵食に対する堤防強化対策延長(km) (平成23年3月)

	北川	遠敷川	計
浸透	6.0	2.2	8.2
侵食	0.5	0.5	1.0

修正理由

改修事業の促進や最新の横断測量、堤防浸透解析等の検討結果精査による見直し

	北川水系河川整備計画(案)	北川水系河川整備計画
P4-5	<p>4.1.1 洪水等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項 (2) 堤防の安全性の確保 図 4.1.5 堤防断面形状確保実施予定箇所</p> 	<p>4.1.1 洪水等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項 (2) 堤防の安全性の確保 図 4.1.5 堤防断面形状確保実施予定箇所</p> 
修正理由	<p>最新の横断測量結果、背後地の状況等の精査による見直し</p>	

	北川水系河川整備計画(案)	北川水系河川整備計画
P4-5	<p>4.1.1 洪水等による災害の発生防止又は軽減に関する事項 (2) 堤防の安全性の確保 図 4.1.6 堤防安全性確保実施予定箇所</p>  <p>平成20年3月現在</p>	<p>4.1.1 洪水等による災害の発生防止又は軽減に関する事項 (2) 堤防の安全性の確保 図 4.1.6 堤防安全性確保実施予定箇所</p>  <p>平成23年3月現在</p>
修正理由	<p>改修事業の促進や最新の横断測量、堤防浸透解析等の検討結果精査による見直し</p>	

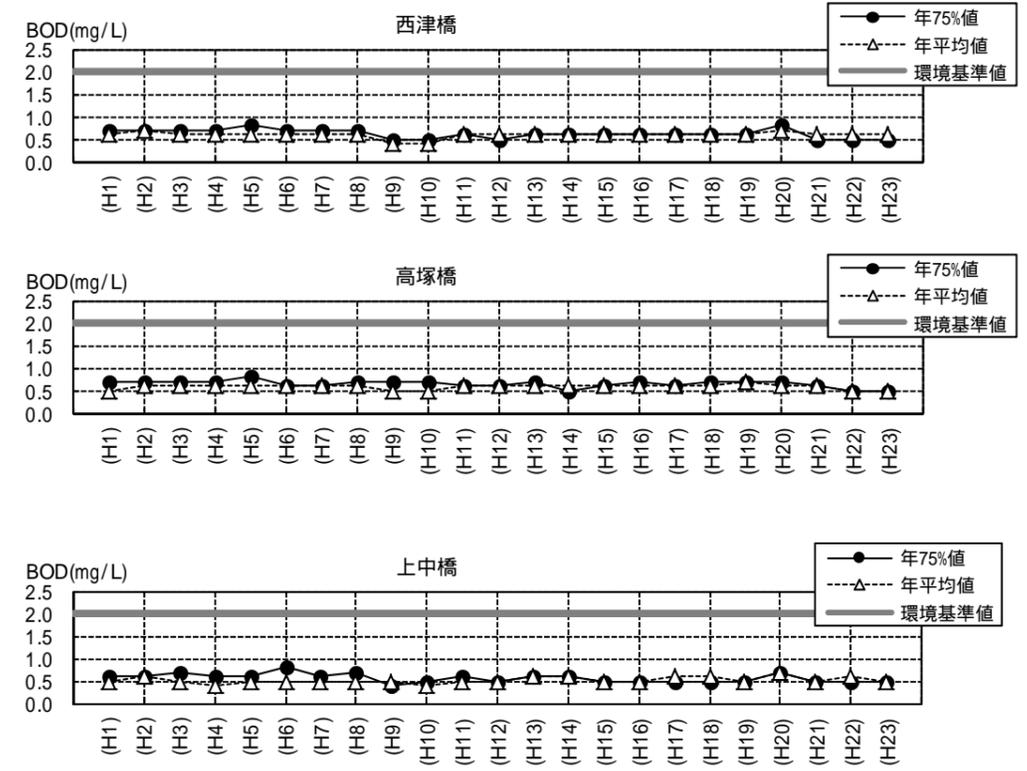
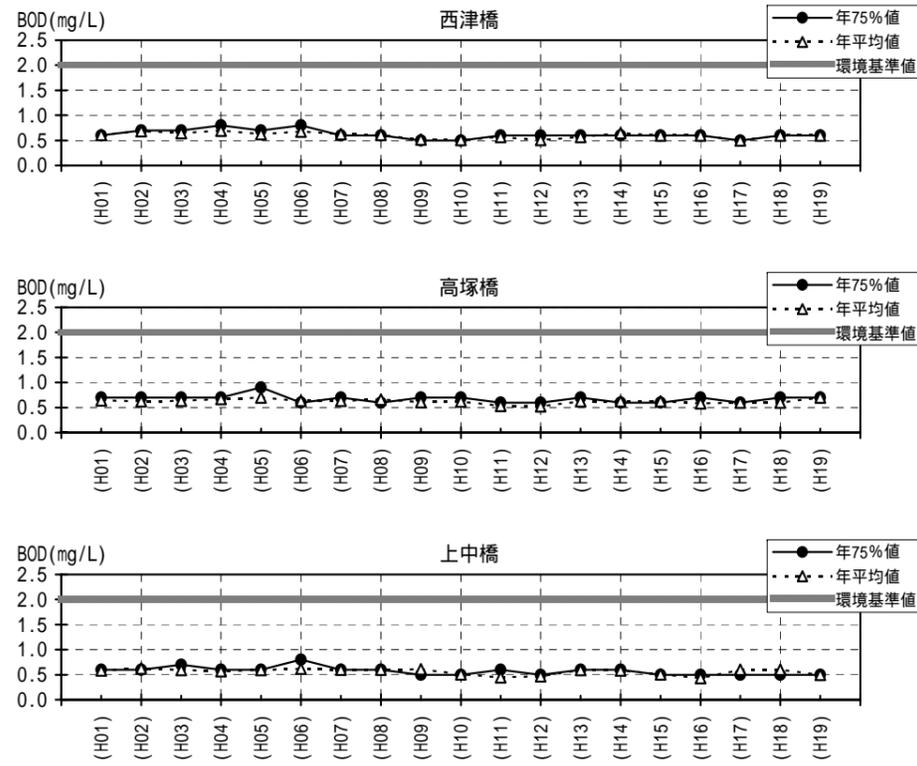
北川水系河川整備計画(案)

北川水系河川整備計画

P2-20

図 2.3.3 国管理区間の水質 (BOD 平均値, 75%値)

図 2.3.3 国管理区間の水質 (BOD 平均値, 75%値)



修正理由

H20~23のデータ追加更新による見直し